

人権課題を解決するために

「ちがい」を認め合おう

(100分)

【対象者】

中学生～成人一般

20人～40人程度

【関連する視点・課題】

多様性の尊重・共生

外国人と人権

ねらい

日本に住む外国人に対して、差別意識や偏見をもたず、相手を理解し、思いやりをもって接することの大切さに気づくようにします。

準備

- サインペン
- マジックインキ
- 付箋紙
- ワークシート
- 模造紙

アクティビティの実際

導入
(15分)

アイスブレイキング

「いいところみつけ」

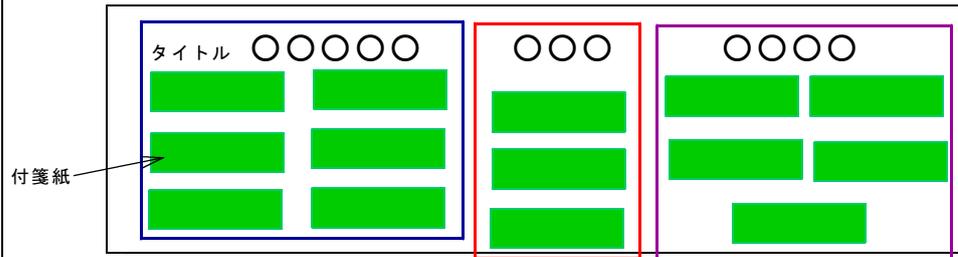
- 1 部屋の中を自由に歩き、出会った人と握手をしてジャンケンします。勝った人は、自己紹介をし、負けた人は、聞き役となります。
- 2 自己紹介が終わったら、聞き役は、「それは素晴らしいですね。」と絶賛し、どこが素晴らしいのかその理由を述べるようにします。自己紹介した人は、お礼を述べ、役割を交代します。
- 3 終了したら、3人グループになり、座ってもらいます。
※終了後、ほめられたり、励まされたりするとどんな気持ちだったかを発表します。また、ほめること、励ますことのどちらが難しかったかについて話し合うようにします。

展開
(60分)

「ちがい」を認め合おう

- 1 外国人に対して、どんな差別や偏見があるのか、全体で話し合います。
- 2 エピソード1について話し合い、親子の会話で気づいたことについてワークシートに書きます。
※もしあなたが、声をかけた外国人だったらどう感じるでしょうか？
- 3 エピソード2のトラブルが起きた原因を「日本人の問題」「外国人の問題」「その他考えられる問題」の三つの側面から考えます。

- 4 グループで、一人ずつワークシートをもとに、それぞれのエピソードについて考えたことを発表し合います。
- 5 「どのように外国人に対して理解を深めていけばよいのか」を個人で考え、付箋紙に書きます。
- 6 付箋紙をグループ内で発表し合い、類似意見について分類し、タイトルを付けます。その際、模造紙を各グループに1枚配布します。
- 7 各グループ毎に「どのように理解を深めるか」、分類した意見を発表します。



ふ り 返 り
(2 0 分)

ふり返り

- 1 自分が日本と異なった言葉、文化、習慣がある外国に住んだとき、どんなとまどいを感じるか。また、そのとき、その国の人にとってどう接してほしいか考えるようにします。
例) あなたが外国で生活したとき「してほしい」と思うことを日本にいる外国人も望んでいます。
あなたなら、どうしますか？
- 2 全体を通して、「違いを認め合う」とはどういうことなのか、また、外国人にどのように関わっていくことが大切なのかを話し合います。

ポイント



- 外国人に対する差別や偏見について多面的な視点から考えられるようにすることが大切です。
- 外国人に対する差別や偏見が「悪い」という一面的な考えにならないようにしましょう。
- 文化や習慣の違いを認めた上で、外国人も共に社会を生きる仲間として接していくことが大切であることに気づくようにします。

【応用・発展のために】

- 外国の文化や習慣について調べたり、異なった文化に対する理解を深める学習を行ったり、身近にいる外国人との交流会をもつ機会と組み合わせると効果的です。

「『ちがい』を認め合おう」ワークシート

- ① エピソード1について、次のことを書きましょう。

親子の会話から気づくことは、どんなことでしょうか？

あなたが声をかけた外国人だったら、どう感じるでしょうか？

- ② エピソード2のトラブルについて、次の側面から原因を考えましょう。

日本人の問題

外国人の問題

その他考えられる問題

「『ちがい』を認め合おう」エピソード

エピソード 1

○親子の会話から気づくことはありませんか？

子ども：お父さん、外国人に話しかけられたんだ。『すみません「エキ」ハドコニアリマスカ？』って。なんだか怖くなって、無視してすぐ逃げたよ。

父親：最近、外国人の犯罪が増えてるから注意しろよ！

エピソード 2

○ゴミの出し方（出す時間や分別の方法等）をめぐって地域住民と外国人の間でトラブルが起きています。
その原因は？

「『ちがい』を認め合おう」ふり返りシート

ふり返りシート

※ あなたが日本と異なった言葉、文化、習慣がある外国に住んだとき、どんなとまどいを感じるとおもいますか。そんなとき外国人にどう接してほしいですか